

(1) 東京都の結核患者の推移

かつて国民病といわれ、我が国の死因で最も多くを占めていた時代があった結核患者は、関係者のたゆまぬ努力により、2000年代に入った後も減少し続け、2021年には東京都における人口十万人当たりの結核罹患率は10.2となり、低蔓延国の目安である10未満は目前となっている。

しかしながら、東京都においては依然として毎年1000人以上の新規の結核患者が発見され、毎年100名以上が結核により死亡しており、我々を脅かす疾患であり続けている。

したがってこれからも前根絶（十万人当たり1.0未満）、根絶（十万人当たり0.1未満）を目指し引き続き対策が必要である。

(2) 低蔓延化後における結核啓発

結核患者の総数は減少傾向ではあるが、高齢者や外国人の全体に占める割合は増加傾向であり、外国出生結核患者においては、出身国も多様化している。

したがって、これまで行ってきた普及啓発の継続のみならず、高齢者施設や外国人労働者の管理団体等、周囲の方向けに結核の正しい知識の普及啓発についても積極的に行っていく。

